

『パキータ・全幕』

オーディションのお知らせ

アメリカン・バレエ・シアター、ミラノ・スカラ座バレエ団、ボストン・バレエ団など海外一流バレエ団、そして日本バレエ協会がレパートリーに持つ数多くの古典名作を手掛けた名匠アンナ＝マリー・ホームズのワールド・プレミア(世界初演)!

1. 公演概要

演 目： 「パキータ」全幕 アンナ＝マリー・ホームズ振付・演出による
公 演 日： 2024年3月9日(土)ソワレ、10日(日)マチネ/ソワレ <全3回公演>
会 場： 東京文化会館 大ホール バレエミストレス：佐藤真左美、角山明日香
主要キャスト：パキータ/リュシアン＝国内外著名バレエ団プリンシパルほか予定

2. オーディション概要

期 日： 2023年9月23日(土)
時 間： 1回目 11:00~12:30 (10時受付開始)
2回目 13:30~15:00 (12時30分受付開始)
会 場： 品川学藝高等学校(旧日本音楽高等学校)(東急大井町線「下神明」最寄・徒歩3分)
審査内容： センター・レッスン
参加資格： 高校生以上で ① 平日の稽古に参加可能であること。

② 2月、3月に公演、発表会等が無い者。(2月集中リハーサルになる為)

※日本バレエ協会会員でなくてもオーディションに参加可能ですが、チケット販売協力などの出演条件が異なります。

募集役柄(予定)

女性：パキータの友人、ロマのソリスト、ロマのアンサンブル、トロワ(一幕に入ります)、グランのヴァリエーション・ダンサー、グランのアンサンブル、貴婦人 等。

男性：ロマ、盗賊、フランス兵、スペイン兵、貴族 等。

※ グランのマズルカを含む子役のオーディションは別の日に行います。

3. 配役/合否発表

配役は振付者、制作担当者によって決定されます。ソリスト、アンサンブル共にトリプル、又はダブル・キャストを組む予定ですが、主役以外でも主要ソリスト、ドン・ロペス、デルヴィリ將軍などキャラクターについては日本バレエ協会指名する場合がございます。いわゆるグラン・パキータではないので女性ダンサーも踊りだけではなく演技力も考慮させて頂いた上でキャストिंगを行います。

合格の場合、概ね2週間以内に踊って頂く役柄・出演料・販売チケット等を記載した「出演契約書」を郵送致します。出演承諾される場合、署名捺印の上、ご返送頂きます。

4. リハーサル

2024年1月初旬より順次開始、2月初日に振付者来日、集中リハーサル。新宿村や花伝舎(ともに西新宿)等を予定。原則として月曜日~金曜日13:00~17:00、日曜日17:30~21:45を予定。(土曜は休み)
※リハーサルの出席率が悪い場合、降板、役替えなどさせて頂く場合がございます。

5. 販売協力チケット

出演者にはチケットの販売協力をお願いしておりますが、詳細はオーディション当日にご説明いたします。

6. 参加申込方法

裏面申込書をバレエ協会事務局までご郵送ください。 9月15日(金)必着
〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-1 2-30 芸能花伝舎2階
(公社)日本バレエ協会 都民芸術フェスティバルオーディション担当宛
《制作担当》 チーフ：本多実男(090-3238-5837) 制作補佐：前田藤絵、江藤勝己

アンナ＝マリー・ホームズ

アンナ＝マリー・ホームズは1942年4月17日、カナダのプリティッシュコロンビア州ミッションシティで生まれた。

トロント王立音楽院でピアノを学び、バンクーバーでヘイノ・ハイデンとリディア・カルボワに、ビクトリアでウィン・ショーに、ロンドンでオードリー・デ・ヴォスとエロル・アディソンに、ニューヨークでフェリア・ドゥブロフスカにバレエを学んだほか、当時としては異例にソ連に留学し、レニングラード・バレエ学校（現サンクト・ペテルブルグ。通称ワガノワ・バレエ学校）で名教師ナタリア・ドゥジンスカヤ、更にはアレクサンドル・プーシキン等に師事、またアムステルダムではカレル・シュックに師事。

ホームズは1960年から1962年までカナダのロイヤル・ウィニペグ・バレエ団のソリストを務め、1960年代初頭にはキーロフ・バレエ団（現マリインスキー・バレエ）にゲスト出演、北米大陸出身のバレエ・ダンサーとしては初の快挙となった。

その他ホームズはロンドン・フェスティバル・バレエ団（現イングリッシュ・ナショナル・バレエ）、スコティッシュ・バレエ団、ベルリン国立歌劇場バレエ団、オランダ国立バレエ団、シカゴ・バレエ団、レ・グラン・バレエ・カナディアン等と共演、1985年に現役を引退した後はボストン・バレエ団にバレエ・ミストレスとして参加、1997年には同バレエ団芸術監督に任命された。またボストン・バレエ団ダンス教育センターの学部長も務めた。

2001年ボストンバレエ団退団。2000年にPBS（テレビ局ネットワーク）で放映された『海賊』の演出でエミー賞を受賞。

バレエ教師としてのアンナ＝マリー・ホームズはロンドンのロイヤル・バレエ、トゥールーズのバレエ・デュ・キャピトル、オスロのノルウェー国立オペラ・バレエ、コペンハーゲンのデンマーク王立バレエで指導を行い、ポルトガルのコスタ・ド・ソル国際ダンスアカデミーの創設者であり共同芸術監督も務めた。

その他ジャクソン国際バレエ・コンクール・バレエ学校の芸術監督、ジェイコブス・ピロー・ダンス・フェスティバルの芸術監督も務め、2006年にはイタリアの夏のフェスティバルであるバレエ・アドリアティコの共同創設者となった。（現在はバレエ音楽出版社のエディション・アンナ＝マリー・ホームズと共同）

アンナ＝マリー・ホームズは「白鳥の湖」、「ジゼル」、「ドン・キホーテ」、「眠れる森の美女」、「ラ・バヤテール」、「くるみ割り人形」「海賊」など特にロシアのクラシックバレエの再演で知られているが、アニエス・デ・ミル、ピーター・ダレル、ルース・ペイジなど、さまざまな振付家が彼女のための作品を制作している。

彼女の作品はアメリカン・バレエシアター、ミラノ・スカラ座バレエ団等世界の一流バレエ団でレパートリーとされているが、日本バレエ協会でも1996年「眠れる森の美女」、1997年「白鳥の湖」、2004年「眠れる森の美女」、



2006年「白鳥の湖」と複数回に亘り都民芸術フェスティバルにおいて彼女の作品を取り上げている。

尚、彼女は夫君であったデイビッド・ホームズと共にカナダの著名映像作家ノーマン・マクラーレン監督による受賞作品『バレエ・アダージョ』に出演してパ・ド・ドゥを踊っており、同じくカナダの著名映像作家グラント・マンローのドキュメンタリー『トゥール・アン・レール』にも出演し、同作はアメリカ映画祭でドキュメンタリー部門最優秀賞を受賞している、



パキータの物語

プロローグ

ナポレオン統治時代のスペイン南部の小さな町。果樹園に続く街道でロマの子供たちが遊んでいたがフランス兵に追い払われる。その直後、デルヴィリ伯爵家を襲って夫妻を殺害、夫妻の乳飲み子をさらって逃亡中の盗賊たちが現れたが、フランス兵の姿を見てあわてて盗んで来たメダリオンとさらってきた赤ん坊を近くにあったロマの果実の収穫籠に投げ入れて姿を消す。

ロマの女達は捨てられた赤ん坊を哀れみ、メダリオンをその胸にかけると自分達で育てて行くことにする。

第一幕

今を去る事十数年前のこの日、弟夫妻を盗賊によって殺されたデルヴィリ將軍は、母である伯爵夫人と共にデルヴィリ家の荣誉を讃える記念碑に花輪を捧げるために広場にやって来た。その場にはフランス軍高級将校のリュシアン、さらにはフランスによる占領統治を快く思っていないスペイン総督ドン・ロベスもいるが、そこにロマの人々がデルヴィリ家のために踊りを披露するためにやってきた。

その中にはパキータという名のひとときわ若く美しいロマの娘もいたが、彼女はしつこく言い寄るロマの頭領イニゴに煩わされていた。

やがてフランスとスペインの貴族達が広場に集まって来てイニゴは配下のロマ達に踊りを披露する様に命じる。イニゴはパキータに貴族たちに金を無心するよう促し、パキータは貴族たちの間を帽子をもって回るが途中でリュシアンと視線が合う。たったひと目で、二人の間に他人に対する興味以上の感情が芽生えた。

パキータが集めた金が少ないことに怒ってパキータをなじるイニゴをリュシアンがなだめるがそれがかえってイニゴを苛つかせた。彼は本能的に二人の心情を見抜いており、リュシアンに激しく嫉妬していた。それに目をつけたのがドン・ロベスであり、彼はイニゴを使えばフランスへの報復が適うものと踏んで彼を自らのリュシアン暗殺計画に引き入れる。

第二幕 一場

数日の後、イニゴの家。パキータは一人家の中で恋しくは想っても余りに自分と身分が違いすぎるリュシアンとの恋を憂いで物思いに沈んでいる。そこにイニゴと仮面の男がやって来るのが見え、何やら不吉なものを感じたパキータは身を隠す。そしてパキータは彼らがリュシアンを殺そうと計画しているの耳にする。

それはイニゴがリュシアンの武器を取り上げた上で薬を飲ませて眠らせ、そこに仮面の男、すなわちドン・ロベスが入ってきて彼を殺してからイニゴが証拠を消すという計画で、パキータはなんとか家の外に出てこの陰謀をリュシアンに知らせようとするができない。

そうこうしている内にリュシアンが尋ねてきてしまい、イニゴに眠り薬入りの酒をすすめられる。パキータは機転をきかせて二人のコップを入れ替え、イニゴは寝入ってしまう。そこに回転暖炉からドン・ロベスが入ってきてイニゴとは知らず寝ている男にナイフを突き立て、その時になってようやく彼は自分の失態に気づき、慌ててその場から立ち去る。

第二幕 二場

デルヴィリ將軍家のバルルーム。フランスとスペインの貴族たちが集っているところに突然リュシアンとパキータが走り込んで来た。リュシアンは自分が暗殺未遂に遭い、パキータが彼を救ったのだと説明する。

その最中、ドン・ロベスがそっとその場に交じり込もうとするがパキータは彼こそがイニゴとリュシアン暗殺の陰謀を企てた仮面の男であるとすぐに見破り、ドン・ロベスは兵に逮捕され連行されて行く。

この騒ぎの最中、壁に掛けられた殺害されたデルヴィリ伯爵の肖像画を見たパキータは、その人物が彼女が肌身離さず身につけていたメダリオンの中の肖像画とそっくりだと気が付き、それを人々に示す。

パキータは実は盗賊に誘拐され行方不明とされていたデルヴィリ伯爵の娘だと判明する。

リュシアンとパキータの間の身分の差は無くなり、パキータはリュシアンのプロポーズを受け入れた。

盛大な舞踏祝賀会が始まり、華やかな宴はパキータとリュシアンの結婚の祝福で終わる。